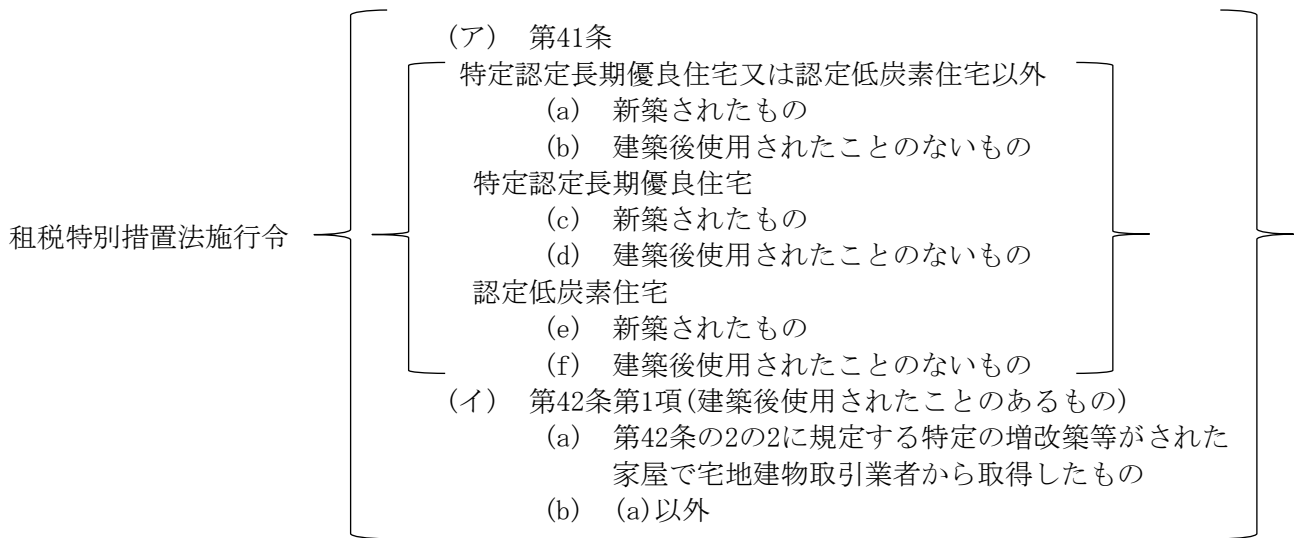


住宅用家屋証明申請書



の規定に基づき、次の家屋がこの規定に該当するものである旨の証明を申請します。

年 月 日

つくば市長 宛て 申請者 住所氏名電話番号
 代理人 住所氏名電話番号

所在地	
建築年月日	年 月 日
取得年月日	年 月 日
取得の原因 (移転登記の場合に記入)	(1) 売買 (2) 競落
申請者の居住	(1) 入居済 (2) 入居予定
床面積	m ²
構造	造
区分建物の耐火性能	(1) 耐火又は準耐火 (2) 低層集合住宅
工事費用の総額 (イ)の(a)の場合に記入)	円
売買価格 (イ)の(a)の場合に記入)	円

受付	本人確認	審議	決裁	照合	交付
	<input type="checkbox"/> 運転免許証 <input type="checkbox"/> 個番カ <input type="checkbox"/> 健康保険証 <input type="checkbox"/> 調査士 <input type="checkbox"/> 司法書士 <input type="checkbox"/> その他				

<備考>

- 1 { } 中は、(ア)又は(イ)のうち該当するものを○印で囲み、さらに(ア)を囲んだ場合は(a)から(f)のうち該当するものを、(イ)を囲んだ場合は(a)又は(b)のうち該当するものを○印で囲むこと。
- 2「建築年月日」の欄は、(ア)の(b)、(d)又は(f)を囲んだ場合は記載しないこと。
- 3「取得年月日」の欄は、所有者移転の日を記載すること。なお、(ア)の(a)、(c)又は(e)を囲んだ場合は記載しないこと。
- 4「取得の原因」の欄は、移転登記の場合に限り、(1)又は(2)のうち該当するものを○印で囲むこと。
- 5「申請者の居住」の欄は、(1)又は(2)のうち該当するものを○印で囲むこと。
- 6「構造」の欄は、昭和56年12月31日以前に建築された家屋について証明を申請する場合に記載し、当該家屋の登記記録に記録された構造を記載すること。
- 7「区分建物の耐火性能」の欄は、区分建物について証明を申請する場合に、(1)又は(2)のうち該当するものを○印で囲むこと。なお、建築後使用されたことのある区分建物の場合、当該家屋の登記記録に記録された構造が石造、れんが造、コンクリートブロック造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造であるときは、(1)を○印で囲むこと。
- 8「工事費用の総額」の欄は、(イ)の(a)を囲んだ場合にのみ、租税特別措置法施行令第42条の2の2第2項第1号から第7号までに規定する工事の種別のいずれかに該当する工事の合計額を記載すること。
- 9「売買価格」の欄は、(イ)の(a)を囲んだ場合のみ、当該家屋取得の対価の額を記載すること。